

① 第2期定時総会と記念講演を開催

第2期定時総会と記念講演を2024年11月21日午前10時より東京・人形町の日本橋社会教育会館で開催しました。防水資料のデジタル化等のアーカイブズ整備事業の推進並びに会員強化等の新年度事業計画・新役員などが承認され、設立3期目に向けてスタートしました。



まず、事務局長の司会により総会成立（会員数82に対して当日出席33、委任状出席30）が報告され、続く挨拶では田中享二代表理事が「昨年設立したばかりで、そもそもアーカイブズ資料館という日本にも世界にもないような組織をどう進めていくか分からない手探り状態で始めたが、後ほど説明するようにいろいろな活動ができた。普通の

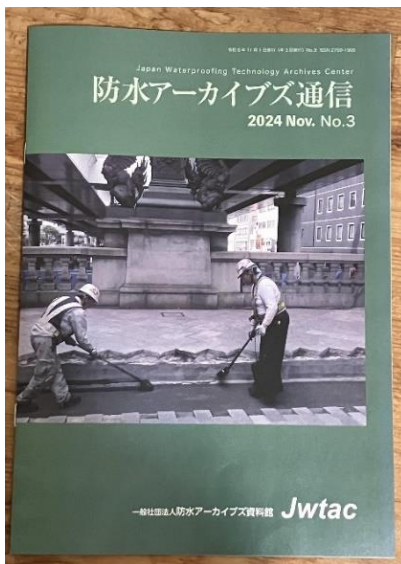
法人ならば行うべきことも決まっているが、まだそれが明確ではない組織でもあり、皆様のご意見をお聞きし反映していくことが活動につながっていくので、皆様には運営に直接的に関与する立場でご発言・アドバイスをいただければと思う」と述べました。

引き続き田中代表理事を議長として議案審議に入り、①第2期事業報告 ②同決算報告および監査報告（石原沙織理事が監事代行）③第3期事業計画（案）④同収支予算計画（案）⑤役員改選・事務所移転、すべて原案通り承認、可決されました。事業報告においては、アーカイブズ整備事業の一環として東京・町田市に資料館分室を設置、JWMA（日本防水材料協会）会議室に保管していた一部資料の移動、同分室での日本建築学会防水材料の長期耐久性小委員会の暴露試験サンプル整理作業等の活動が紹介されました。

議事終了後、興石直幸理事が閉会の辞として、「防水アーカイブズはいわば埋もれた宝を探す考古学的な活動で、実績も積み軌道に乗ってきた。一方、これからは宝が埋もれる前にきちんと残していくことも必要だと思っていて、現在の多大な量の情報をどう収集していくか、その辺の工夫も将来に向けて考えていきたい。ただし、宝を残すことだけに力を注ぐのは違和感があり、我々はむしろ宝をつくる方を優先すべきで、必死になって残すような方法ではなく定常的に無理せず、人もどんどん継続するような仕組みを考えていきたいと思うので、皆様のご意見等もいただきたい」と述べ、総会は終了しました。

資料館新年度役員は次のとおり。▷代表理事・館長＝田中享二（東京工業大学名誉教授）
▷理事・副館長＝石原沙織（千葉工業大学教授）▷理事＝興石直幸（早稲田大学教授）、
森田喜晴（事務局長、ルーフネット）▷監事＝桑田恵美（ネイチャーランド）

総会終了後には、宮内博之氏（国立開発研究法人建築研究所材料研究グループ上席研究員）を講師に招き「防水分野への応用展開～ドローン・空飛ぶ車・四足歩行ロボットの活用可能性」と題する記念講演を行いました。宮内氏が関わっているドローンを中心とした無人化技術の適用状況について防水関連分野を中心に事例を交えて紹介、ドローンと他技術との融合による応用、調査診断など実用化技術や実証段階の技術、また、四足歩行ロボットの実験例、空飛ぶ車の実用化による屋根利用・屋根防水への影響などについて語られました。



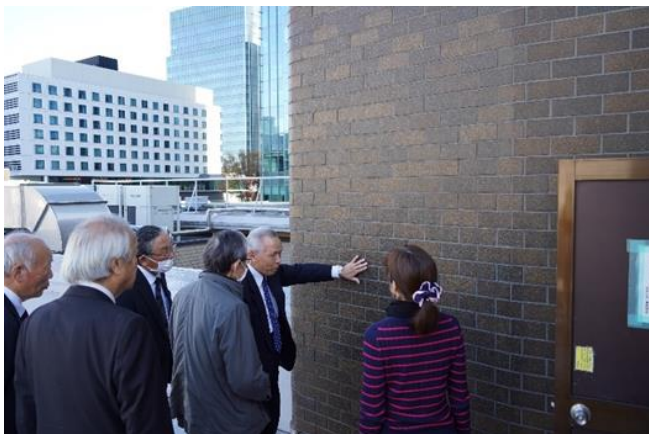
★防水アーカイブズ通信第3号を発行。
総会で配布しました。主な内容は以下の通り。

- ・建築学会 2024 大会（東京）
- ・AIJ 耐久性評価小委員会がサンプル整理
- ・第 28 回 R&R 建築再生展 2024 に出展
- ・活動報告
- ・若き防水人のための防水基礎講座

表紙は東海道五十三次の起点である日本橋の
防水改修工事（撮影：2010 年 11 月）

② 近三ビル見学会

12 月 2 日、東京都中央区日本橋室町 4-1-27 の近三（きんさん）ビル見学会を行いました。参加者は 10 名。竹中工務店技術部在席当時、この建物の改修工事を担当した内田忠雄氏の案内で、バックヤードを含む建物の内部や外壁・屋上を見学しました。その後、



会議室でビルオーナーの森五商店・森隆社長から建物の歴史・特徴・維持管理・改修工事に関して詳細な説明がありました。

元禄年間、初代森五郎兵衛は滋賀県八幡町（現 近江八幡市）の近江商人に奉公した後、呉服商「森五商店」を設立。1714 年（正徳 4 年）9 月、江戸の神田竪大工町（現在の内神田、神田多町）に進出。



1745年（延享5年）、神田本石町（現在の日本橋本石町）に移転するとともに、屋号を近江屋三左衛門としました。建物名称の近三は、この屋号に由来します。近三ビルディングは、村野藤吾が渡辺節建築事務所から独立して最初に設計した建物で、村野は本ビルを手掛ける直前にヨーロッパを旅し、そこで学んだことを表現に活かしたと

言われています。

改修工事は竣工以降1956年、1960年、1965年、1992年、2006年、2014年の6度にわたり増改築・大規模改修が行われてきており、1965年の第3期工事までは、設計者である村野が携わりました。1980年にはタイルの剥離を抑えるためエポキシ樹脂が注入されましたが、その後も剥離が見られたため全面張替えが検討されました。東京都歴史的建造物意匠保存事業の補助金を活用して、240×98mmのオリジナルサイズのタイルから4種類の色合いの190×75mmのサイズに変更しています。1994年にBELCA賞、1999年に東京都選定歴史的建造物に選定されています。

【JWTAC 会員数（12月16日現在）：82】 個人37、メーカー19、施工17、団体9

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

一般社団法人 防水アーカイブズ資料館（略称・JWTAC）事務局長・森田喜晴

〒195-0053 東京都町田市能ヶ谷7-23-31-304 FAX: 042-812-3518

E-mail: jwtac@bousui-archives.jp <https://bousui-archives.jp/>